

震度別の揺れ方

震度0



あまり揺れを感じません。

震度1



屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいます。

震度2



屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じます。眠っている人の中には、目を覚ます人もいます。

震度3



屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じます。

震度4



ほとんどの人が驚きます。歩いている人のほとんどが、揺れを感じます。

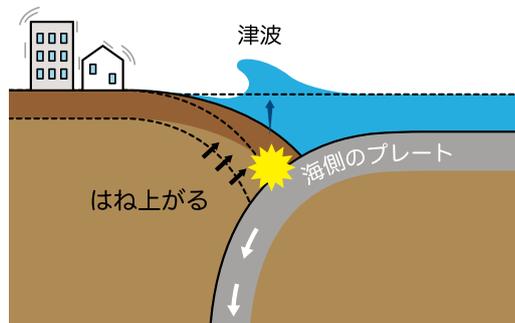
震度5弱



大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じます。

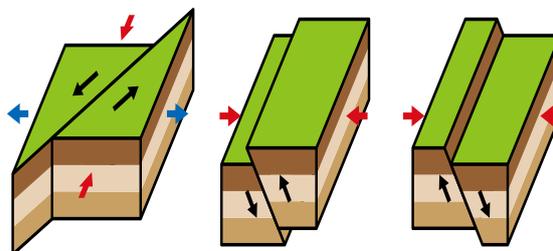
地震が発生するしくみ

海溝型地震



海側プレートが陸側プレートの下に潜り込むことで、エネルギーが溜まり、限界に達したときにプレートがはね上がり、地震が発生します。

内陸型地震（直下型）



地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、ひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときにずれ動き、その直下で地震が発生します。

震度5強



大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じます。

震度6弱



立っていることが困難になります。

震度6強



固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなります。

震度7



固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともあります。また、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなります。

過去5年間に発生した震度6弱以上を観測した地震による被害状況

名称	最大震度	人的被害（人）		住家被害（棟）		一部破損
		死者	負傷者	全壊	半壊	
長野県北部を震源とする地震	震度6弱	—	46	81	133	1,821
平成28年熊本地震	震度7	272	2,808	8,668	34,720	162,562
内浦湾を震源とする地震	震度6弱	—	1	—	—	3
鳥取県中部を震源とする地震	震度6弱	—	32	18	312	15,095
茨城県北部を震源とする地震	震度6弱	—	2	—	1	25
大阪府北部を震源とする地震	震度6弱	6	443	18	517	57,787
平成30年北海道胆振東部地震	震度7	41	749	415	1,346	8,607
山形県沖を震源とする地震	震度6強	—	43	—	36	1,245

室内外における家具等の転倒・落下防止

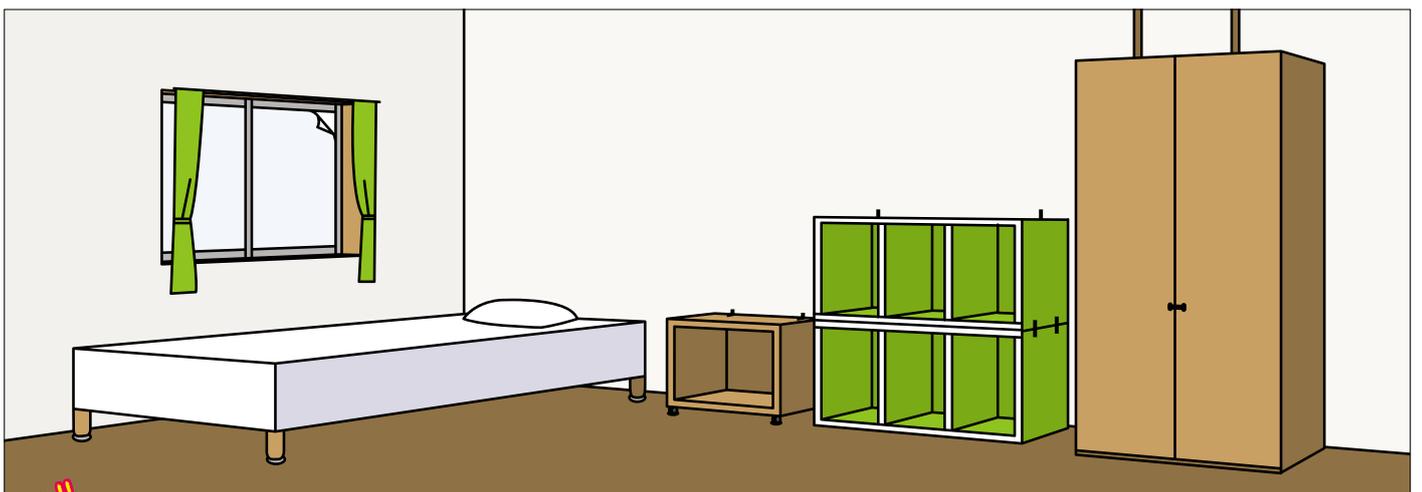
リビング等の対策



Check!!

- 照明器具 揺れないようにチェーンで固定する。
- テレビ テレビ本体とテレビをベルトや粘着マットで固定する。テレビ台を金具で壁に固定して、テレビ台の脚に滑り止めを付ける。
- テーブルやイス 脚に滑り止めを付ける。
- 電子レンジ 粘着マットや器具で台に固定する。
- 食器棚 転倒した場合に邪魔にならない場所に設置して、金具で壁に固定する。
- 引き出し 飛び出し防止のための鍵付ラッチを使う。
- 戸棚 収納物が飛び出さないよう、扉に防止器具を付ける。
- 冷蔵庫 避難の邪魔にならない場所に設置し、器具で壁に固定する。

寝室の対策



Check!!

- ベッド 脚に滑り止めを付ける。
- 窓ガラス 飛散防止フィルムを貼る。
- 家具 キャスター付きの場合は、キャスターをロックして、下皿を使用する。また、器具で壁に固定する。
- 収納ボックス 複数のボックスを重ねている場合は、上下をつないで固定し、器具で壁に固定する。
- タンス・クローゼット 寝る位置に家具が倒れてこないように配置を工夫する。また、家具が転倒したときに避難の妨げになる位置に家具を配置しない。

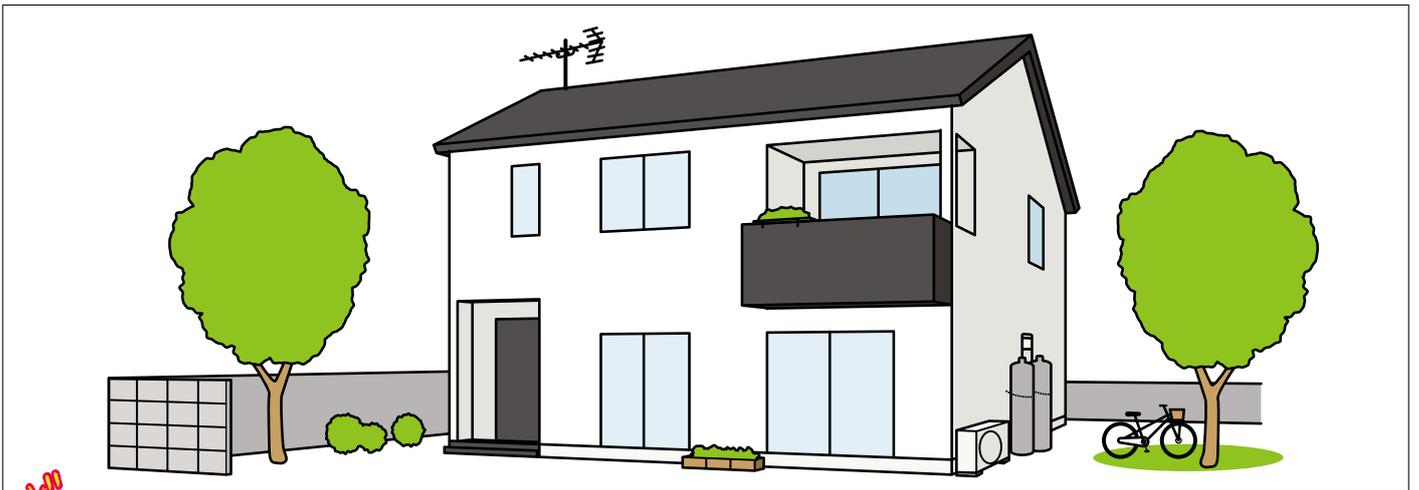
オフィス内の対策



Check!!

- 出入口 避難経路をふさがないように、出入口の近くに物を置かない。
- デスクまわり パソコンは、粘着マットやチェーンで机に固定し、机同士も連結金具で固定する。
- 収納 L字金具で壁に固定し、扉や引き出しをラッチ付きにする。上下に分かれている場合は、連結金具で繋ぐ。
- コピー機 アジャスターで固定し、金具で壁に固定する。
- パーテーション 転倒しづらいレイアウトにして壁に固定する。
- 掲示板 落下しないように金具で固定する。
- 窓ガラス 飛散防止フィルムを貼る。ガラスの前に転倒しやすい物を置かない。

屋外の対策



Check!!

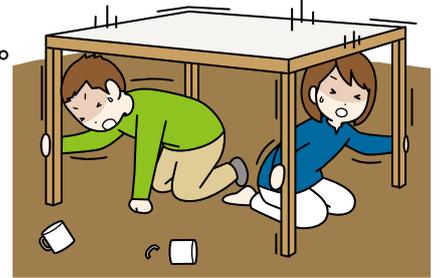
- 屋根 屋根瓦やアンテナが不安定になっていないか確認し、問題がある場合は補強する。
- ベランダ 植木鉢やエアコンの室外機が安全な場所に設置されているか確認して、落下しないように固定する。
- プロパンガス ガスボンベが倒れないように頑丈な土台に設置されているか確認し、鎖で壁に固定する。
- 玄関 避難経路をふさがないように、自転車や植木鉢などをおいている場合は、他の場所に移動させる。
- ブロック塀 鉄筋が入っていない場合は補強する。またひび割れ、傾き、サビがある場合は、修理する。

地震発生時の避難行動

地震発生

揺れを感じたら

- ・ 頑丈な机の下にもぐり、揺れている家具や転倒物に注意する。
- ・ ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- ・ コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。



揺れがおさまったら

- ・ 怪我人が発生したり、出火が起きたら、近隣の人に大声で知らせる。
- ・ 家族が倒れた家具などの下敷きになっていないか確認する。
- ・ 足に怪我をしないように靴を履いて、ガラスの破片などから守る。
- ・ 揺れで家が倒壊するおそれがあるときは直ぐに避難する。

周囲を確認しながら

- ・ 高齢者や障がいのある人の世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する。必要であれば避難の補助をする。
- ・ テレビ、ラジオ、インターネットなどで気象庁などの情報を確認して、自身の安全を確保する。



余震に注意しながら

- ・ 近所で協力して消火・救出・救護活動を手伝う。
- ・ 壊れた家には入らない。
- ・ 家が倒壊するおそれがない場合は、自宅に待機する。
- ・ 火災や家屋倒壊のおそれがある場合は、避難する。
- ・ 避難するときは、車は使わない。
- ・ 家を出る前にブレーカーを切るなどの出火防止策をする。
- ・ 家族がそろって行動できないときは避難先などのメモを残す。

避難所を拠点に

- ・ テレビ、ラジオ、インターネットなどにより、正確な情報を収集する。
- ・ 避難所では、協力し合って集団生活のルールを守る。

地震発生直後の身を守る動き

学校にいる場合



机の下にもぐり、机の脚をしっかり持ち、揺れがおさまったら、先生や校内放送の指示に従って、安全な場所へ移動します。

会社にいる場合



机の下にもぐり、身を守り、揺れがおさまったら、設備の安全点検を行います。

電車などに乗っている場合



手すりやつり革につかまり、緊急停車などの衝撃から身を守り、車内のアナウンスに従って行動します。

スーパーにいる場合



商品の落下や棚の転倒、ガラスの破片に注意して、柱や壁際に寄って、手荷物で頭を守ります。

エレベーターにいる場合



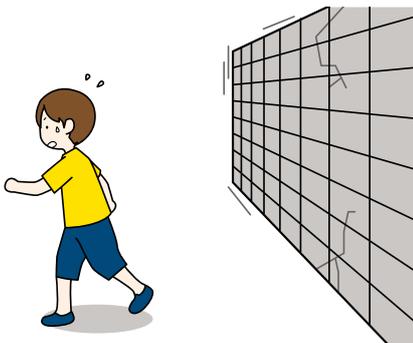
全ての行き先階ボタンを押したら、最寄の階でエレベーターが停止し、扉が開いたら降ります。閉じ込められたら、インターホンで連絡します。

キッチンにいる場合



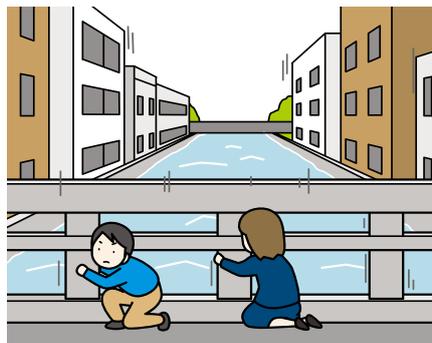
冷蔵庫や食器棚など、転倒や散乱するものが多いので、安全な場所へ移動します。

住宅街を歩いている場合



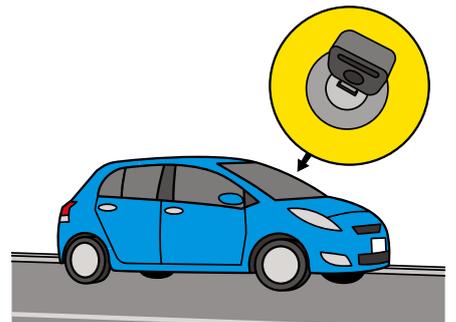
ブロック塀や石壁から離れ、屋根瓦の落下や垂れ下がる電線に注意します。

橋を渡っている場合



振り落とされないように手すりや柵につかまり、揺れがおさまったら、すぐにその場を離れます。

車を運転している場合



後続車を確認しながらスピードを落として道路の左側に止め、鍵をつけたまま、車から離れます。